

第5回品川区子ども読書活動推進計画策定委員会 議事要旨

令和7年1月22日

第二庁舎 8階

教育委員会室

傍聴者3名

【出席】

島田委員長、米田副委員長、平嶋委員、吉田委員、伊藤委員、巻島委員、鶴田委員、尾上委員、蜂屋委員

【欠席】

古里委員、飯作委員、柳岡委員、丸山委員

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議事

(1) パブリックコメントの結果報告

事務局 資料1、資料2を説明。

委員長 ご質問、ご意見はあるか。

委員 ご意見を出していただいた方の属性は分かるか。子どもがいるのか、独身なのか。年齢層とか。全体として、学校司書への要求が多いので、保護者が多いのかと思った。

事務局 属性を公表することはないが、図書館を利用されている方、パブリックコメントにご意見を提供した経験のある方等が、あえて区にご意見をいただいていると思う。しっかり反映して、今後の取り組みに活かしていきたい。

(補足・意見提出には、ご住所・氏名の記入だけを求めているため属性については把握していない)

委員 いただいたご意見に対して、個別にお返しをするのか。それとも、ご意見への回答資料は、計画と一緒に公表されるのか。

事務局 本日の会議でご承認いただいた文面で公表する。

委員 回答欄に結構「計画の取り組みの中で検討してまいります。」というのが出てくるが、どこで検討して、もし形にするのであれば品川図書館としてどのように取り組まれるのか。我々、委員にフィードバックがあるのか。

事務局 計画に基づいて、様々な既存事業を展開している。計画は方向性等、大きなものを決めるものであり、それぞれの事業についてはこの計画に沿ったものにするべきということで、いろいろな変化を与える場合もある。誰が関わるかという点では、今後、新規事業等、様々出てくると思うが、その参画者として、

委員の方かもしれないし、区民の方かもしれないし、幅広い方に参画していただきたいと考えている。そういう意味を込めて書いているところである。

委員 また、他にあれば、後ほどご質問いただければと思う。議事を進めたい。

(2) 計画素案の検討

事務局 資料3を説明。

委員長 ご質問、ご意見あれば、お願いしたい。

私から1点確認したい。ウェルビーイングのところだが、この文章だけだと、「自分らしく」となっていて、どうしても自分中心という形に見えるのではないか。ウェルビーイングの定義でいうと、社会福祉的な観点も含まれている。そのあたりも、もう一言あっても良いのではないか。

事務局 国の教育振興基本計画の定義では、身体的・精神的・社会的に良い状態のことで、さらに将来に渡る持続的な幸福、また、個人を取り巻く場や地域、社会の幸せと示されている。ご指摘いただいたとおり、全体を示すニュアンスが薄いので、例えば、社会全体の幸せや豊かさ等、国の定義を入れる形で再考したい。

委員 個人とともに、プラスアルファで社会も記載される方が、この計画の中では、図書館を中心とした社会、学校等を含めて取り組むという形なので、良いと思う。

事務局 「誰もが自分らしく、それぞれの幸せを感じるとともに、社会全体が幸せや豊かさを感じられる考え方」というように修正したい。

委員 P33の赤字のところ、「さらに子どもたちへ向けても」で文を結んでいるが、「子どもたち」を先頭に出した方が、この計画の全体の趣旨に合致するのではないかと思う。

事務局 「子どもたち」を先頭にされた方が、よりメッセージ性が強くなると思う。そのように修正したい。

委員長 その方向で検討していただければと思う。

他にご意見、ご質問はあるか。

(特になし)

それでは、2か所の修正をしたい。策定委員会として、パブリックコメントへの回答と、素案の修正を了承したいが、よろしいか。

(特に異議なし)

それでは、承認していただいたものとして、議事を進めたい。

(3) 計画概要版(案)の検討

事務局 資料4を説明。

委員長 ご意見、ご質問はあるか。

委員 二次元コードは、何を読み込めるのか。

事務局 音声コードである。書かれている内容を音声で読み上げるものである。

委員 今回の資料は、非常に分かりやすくなった。これまでの品川区の実践について、できているところ、取り残されているところを見られる場所はあるのか。

事務局 計画の中の第二章で、これまで行ってきた事業について厚く掲載している。その中で、手ごたえを感じていただくとともに、こんなことをやってくれると良いなということにつながるかもしれない。

委員 パブリックコメントの期限内だけでなく、いつでも気軽に意見を出せる場所はあるのか。

事務局 図書館では年間を通じて、様々なご意見をいただいている。日常的なご意見でも良い。図書館宛の区民の声でいただければ、一件一件対応している。

委員 概要版については、紙で、保護者や区民への提供はあるのか。デジタルだと、自分から情報を取りにいかないと取れない。この計画があるということを知らせる方策はどうなっているのか。

事務局 皮切りは3月21日号の広報になるが、それ以外でも図書館ホームページや張り紙等で周知する。既存のチャンネルで発信して、皆さんにご活用していただきたいと思う。また、様々なイベントの中でも触れていきたい。

委員 保護者に対しては、PTA等が周知しやすいと思うので、協力してやっていただく必要があると思う。親が知らないと、子どもは利益を受けられない。なので、親にも意識をもってもらわないといけない。既存の団体がどんなに頑張っても、そこに辿り着かない親たちはいる。そこに広く知らせるための方策を考えていただく必要がある。

委員 大切かつ重要な計画なので、やっていることを皆さんに伝えていかないといけない。

委員 こういう計画を分かりやすくすることは勿論だが、これをもらっても保護者はイメージがつかないこともある。なので、具体案を広く伝えていかなければいけない。学校司書が何をやっているのかは子どもを通じてでしか分からないことも多い。児童センターでも絵本を借りられたりすることを知らない人もいる。そういう具体的なものをいかにアピールできるか。私たちNPOは、行政ができないところの穴埋めをするところもあるが、その活動も宣伝していただきたい。私たちも宣伝できるような、そういう仕組みができると良い。

委員長 計画をどう発信できるかという話で、非常に大事である。

委員 計画推進のための施策の6番、3番目の○だが、計画素案の中では○は2つ目までしかない。

事務局 情報発信ということで、端折って記載してしまった。正確な表記に修正したい。

委員 二次元コードは、ここで紹介しているページに飛んだ方が良いのではないかと。親切なものであれば、二次元コードの上に、中身の説明がしてある。特に施策

- のところは、具体的に図書館のホームページに飛んで、実際の活動の写真とか様子を見られるようにした方が良いのではないかと。
- 事務局 二次元コードは、音声の読み上げしかイメージがなかった。リンケージは大切なことと認識している。できる範囲で検討したい。
- 委員 とても素敵なものができたと思う。ウェルビーイングのところだが、子どもたちの実態を考えると、どうしても自己中心的になる。自分や自分たちの周りだけが良ければいいという感じがある。そういう意味で、ウェルビーイングは、みんなにとっても、自分にとっても良いことだという点を外さない方が良い。また、多言語について、本校でも転入生で、ネパール、ウズベキスタン等、いろいろな国の方がいらしている。英語がしゃべれない子もいる。どの国の子どもが来るかは学校により違うが、そういう場に多言語の本等を提供してもらおうという連携もできると良い。本人も、保護者も、地域図書館に行くというのはハードルが高いと思う。障害がある人だけではなく、多言語の人に対しても働きかけができると良い。大人は電車の中でタブレットを見ているが、ゲームをしていたり、違うことをしていたりする人が多い。活字のものに触れて、その情報を共有しながら、子どもと話す機会があると良い。そういうことができる、より広がるのではないかと。
- 事務局 子どもの不読率というが、大人も読んでいないのは仰るとおりだと思ふ。草の根的な活動の中で、自分のためだけでは大人は本を読まないと思ふが、子どものために本を読んでみようとか。そういう柔らかい形の中で、大人の意識も変えつつ、今後の取組を工夫していきたい。
- 委員 親子読書は非常に大事だが、なかなか家庭だと時間が取れない。例えば、学校でも、家庭教育学級で図書館から大人用の本を借りて、子どもと一緒に本を読む活動ができるのではないかと。図書館、学校、PTAと一緒にやるといい。学校に、きっかけづくりへのご協力をいただくと、広がると思ふ。
- 委員 子どもの発達段階によって変わると思ふ。前期課程では何ができるのか、後期課程ではどうやっていくのか。高校もある。そのあたりは、工夫の余地はあると思ふ。
- 委員長 概要版案はすごくまとまっていて良い。要望だが、今後実施していく上で、施策について、どのくらいできたのか、どのくらい参加があったのか、どのような影響があったのか等、年に1回、確認できる場があると良い。何ができて、何ができていないのかの可視化ができると、次につながると思ふ。後からの説明もしやすい。ご検討いただければと思ふ。
- それでは、ご指摘いただいた修正をするということで、計画概要版案を承認していただけるか。
- (一同、異議なし)
- 素案・概要版とも、今後の過程で、若干の修正が発生する可能性があるが、そ

のあたりの対応については、委員長一任で良いか。

(一同、異議なし)

(4) その他

(今後の日程について事務連絡を行った後、最後の委員会ということで、平嶋委員、吉田委員、伊藤委員、巻島委員、鶴田委員、尾上委員、蜂屋委員、米田委員、島田委員の順で各委員から一言いただいた。)

4 閉会